◆ 当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

DIGITAL PIANO

PW750

取扱説明書

KAWAI

●同梱品

本体/スタンド一式/電源コード/取扱説明書（本書）/スタンド組立図/保証書/ご愛用者カード/アフターサービスと音楽教室のご案内（全て各1部）

《ごあいさつ》

このたびは、KAWAI 電子ピアノをお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。

本機では、ピアノの音色はもちろんオルガンなど全 11種類の音色で演奏を楽しむことができます。また、自分の演奏を録音する機能，音に残響効果を与えるリバーブ，伝統的ないくつかの調律法による音律セッティングなど多種多彩な機能を装備しています。さらに、電子楽器統一規格であるMIDI機能も装備していますので、他のMIDIを装備した電子楽器と接続してアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。

本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目次

1.各部の名称と働き 4
2.演奏してみましょう 6
1) 基本操作 6
2) ペダルを使って演奏 10
3) デュアル演奏 11
4) スプリット演奏 12
5) トランスポーズ 14
6) タッチカーブ 15
7) デモ曲の演奏 16
8) メトロノーム 18
3.録音・再生 20
1) 録音 20
2) 再生 23
3) 曲の消去 24
4.設定モード 25
1) チューニング 27
2) 音律の設定 28
■MIDIについて 30
■MIDIの使用例 31
■本機MIDI機能 31
3) MIDI送信・受信チャンネル 32
4) プログラム(音色)ナンバー送信のON/OFF 33
5) ローカル・コントロール 34
6) マルチ・ティンバー・モード 35
7) チャンネルミュート 37
8) プログラム(音色)ナンバー送信 38
■ 主な仕様 39
MIDI IMPLEMENTATION CHART 40
MIDI Exclusive Format 41

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています
製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注意
感電の危険あり
本体をあけるな

注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

このマークは、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。
左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。
左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う
100V以外禁止
●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない
濡れた手で触らない
●感電の原因になります。

◆本機を落とさない
落とさない
●運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。

◆イスは次のように使用しない
●イスで遊んだり、踏み台にしない
●イスには2人以上で座らない
●イスの高さ調節は、イスから降りて行う（調節機能付きの場合）
●イス組立時、ネジをしっかり締める
使用しない
●イスが倒れたり、指をはさむ恐れがあり、けがの原因になります。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない
長時間使用禁止
●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない
分解禁止
●故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く
プラグ部分を持つ
●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間ご使用しない時は必ず電源プラグを抜く
プラグを抜く
●落雷時に火災の原因になります。

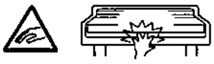
⚠ 注意

◆本機を次のような所では使用しない
- ●窓際など直射日光の当たる場所
- ●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- ●戸外など極端に温度の低い場所
- ●極端に湿度の高い場所
- ●砂やホコリの多い場所
- ●振動の多い場所

使用禁止

●故障の原因になります。

◆鍵盤蓋は、ゆっくりしめる

ゆっくりしめる


●いきおいよくしめると、指をはさみ、けがの原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

電源を切る

●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない

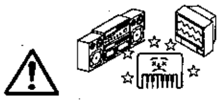
●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆本機の鍵盤にもたれない

もたれない

●本体が倒れる恐れがあり、けがの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す


●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類はからまないように接続する

からまないようにする

●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止

●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない

●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

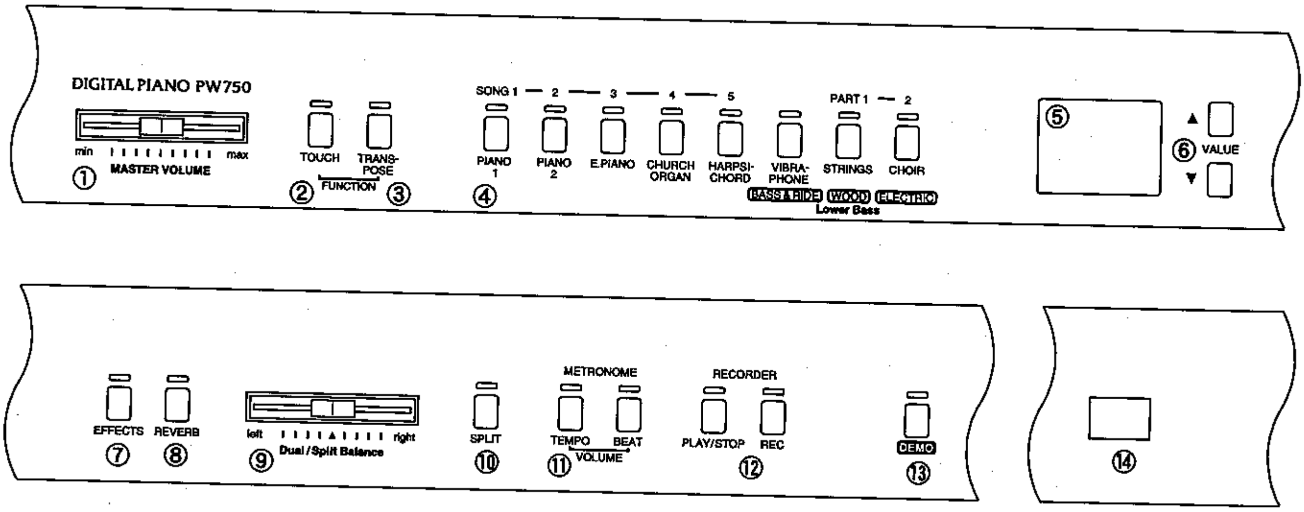
■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1.各部の名称と働き

電子ピアノに付いている、レバーやボタンなどの位置とその機能を説明します。

◆前面



①MASTER VOLUME（マスター ボリューム）
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。max側は音量が大きくなり、min側は音量が小さくなります。

②TOUCH（タッチ） ［→ P.15］
タッチカーブを選択するボタンです。

③TRANSPOSE（トランスポーズ） ［→ P.14］
トランスポーズ機能を使えば、弾き方を変えずに簡単に移調できます。調の異なる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をする時などに便利です。

●FUNCTION（ファンクション） ［→ P.25］
TOUCH/TRANSPOSEボタンを同時押しで、設定モードに入ります。

④音色セレクトボタン/音色名表示 ［→ P.7］
音色を選択するボタンです。演奏したい曲想などに合わせてボタンを押してください。押されたボタンの赤いランプが点灯します。

⑤LED
3文字でテンポなどの値を表示します。

⑥VALUE（バリュー）
値を設定するときに使います。

⑦EFFECTS（エフェクト） ［→ P.9］
コーラス効果、ディレイ効果、トレモロ効果の選択をします。

⑧REVERB（リバーブ） ［→ P.8］
音にリバーブ効果（残響効果）を与えることで、美しい響きが得られます。3Dリバーブを選択すればより広がりのある残響が得られます。

⑨Dual/Split Balance
（デュアル/スプリット バランス） ［→ P.11/13］
メトロノームやレコーダーの録音、再生時のテンポを設定します。
また、デュアルスプリットで演奏する場合の2つの音色の音量バランスを設定します。

⑩SPLIT（スプリット） ［→ P.12］
鍵盤を左右に分けて異なる音色で演奏するときに使用します。

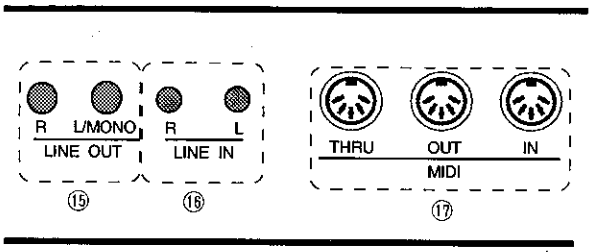
⑪METRONOME
[TEMPO/BEAT/VOLUME]） ［→ P.18］
（メトロノーム [テンポ/ビート/ボリューム]）
メトロノーム音を鳴らし、テンポ/拍子/音量を設定します。

⑫RECORDER（レコーダー） ［→ P.20］
PLAY/STOP,RECの2つのボタンを使って、あなたの演奏を録音、再生することができます。

⑬DEMO（デモ） ［→ P.16］
内蔵されているデモ曲を演奏させるときに使用します。

⑭POWER（電源スイッチ）
電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。

◆後面



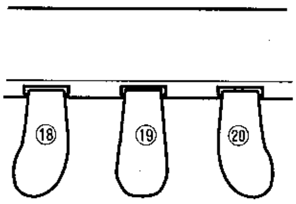
⑮LINE OUT（ライン出力端子）<標準ジャック>
本機の音を他の外部機器（アンプ、ステレオ）などで聴いたり、テープデッキに録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。R（アール）は右側、L / MONO（エル/モノ）は左側の出力を示しています。なお、モノラル信号は、L/MONOにのみプラグを接続したときに出力されます。

⑯LINE IN（ライン入力端子）<ピンジャック>
他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。R（アール）は右側、L（エル）は左側の入力を示しています。

⑰MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器を接続する端子です。

> ◆本機のラインイン（LINE IN）とラインアウト（LINE OUT）を直接ケーブルで接続しないで下さい。
> 発振音が発生し、故障の原因になります。

◆足元

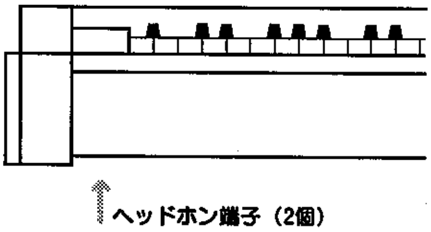


⑱ソフトペダル
音色がやわらかくなり音量も小さくなります。

⑲ソステヌートペダル
鍵盤を押した後、指を離す前にこのペダルを踏むとその音にだけサスティンがかかります。

⑳ダンパーペダル
鍵盤から手を離しても音が余韻をもって消えていくサスティンがかかります。

◆本体左下側



ヘッドホン端子（2個）
別売りのヘッドホン（SH-5,SH-2など）を接続する端子です。ヘッドホンを2つまで接続できます。

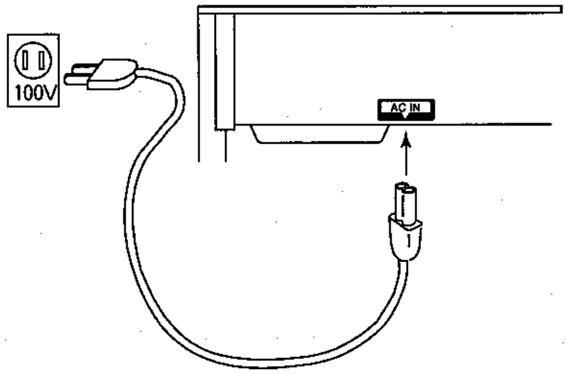
2.演奏してみましょう

ここでは、電源を入れ音を出すまでの
基本的な手順を説明します。

1) 基本操作

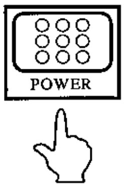
◇操作 1

電源コードを下図のように本体裏側とAC100Vのコンセントに差し込みます。

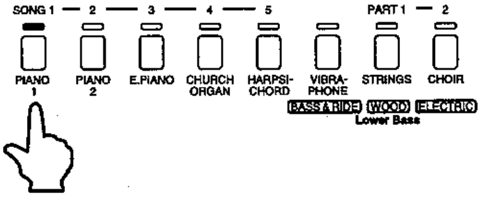


◇操作 2

POWER (電源スイッチ)ﾎﾞﾀﾝを押して電源を ON にします。



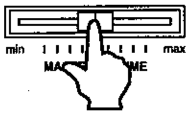
POWER ﾎﾞﾀﾝ を押すと音色セレクトﾎﾞﾀﾝ のPIANO 1と表示されているボタンが点灯します。



■ *電源を ON にした時は、自動的に PIANO1 の音色が選択されます。*

◇操作 3

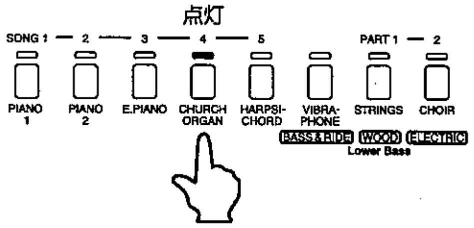
VOLUMEﾚﾊﾞｰを中央付近にセットします。



■音色の選択

◇**操作4**

音色セレクトﾎﾞﾀﾝの中から好きな音色を選んで押します。



押された音色のランプが点灯し選択されます。

チャーチオルガンの音で演奏したい場合は、左図のようにCHURCH ORGANﾎﾞﾀﾝを押して点灯させます。

■ 内蔵音色

◆ **PIANO 1〔ピアノ1〕**
KAWAIのグランドピアノの音です。

◆ **PIANO 2〔ピアノ2〕**
ブライトピアノの音です。明るめなピアノの音です。

◆ **E.PIANO〔エレクトリックピアノ〕**
エレクトリックピアノの音です。

◆ **CHURCH ORGAN〔チャーチオルガン〕**
パイプオルガンの音で、教会などで賛美歌演奏に使われています。

◆ **HARPSICHORD〔ハープシコード〕**
バロック音楽などで使われている別名チェンバロの音です。

◆ **VIBRAPHONE〔ビブラホン〕**
ビブラホンは、大型の鉄琴です。下に取付けてある共鳴管により美しい共鳴が得られます。

◆ **STRINGS〔ストリングス〕**
弦楽合奏音です。バイオリン、ビオラ、チェロやコントラバスを同時に発音した音です。

◆ **CHOIR〔クワイヤー〕**
人の合唱の声です。

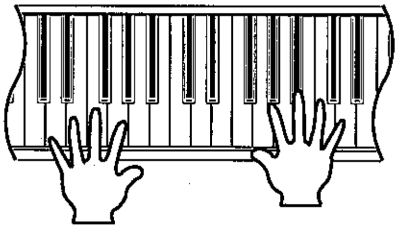
◆ **BASS & RIDE〔ベース&ライド〕**
ウッドベースとライドシンバルを同時に鳴らした音です。

◆ **WOOD〔ウッド〕**
ウッドベースの音です。

◆ **ELECTRIC〔エレクトリック〕**
エレクトリックベースの音です。

◇**操作5**

鍵盤を弾いてみましょう。



鍵盤を弾けば "操作4" で選んだ音で演奏することができます。
音量を調節したい時は、VOLUMEﾚﾊﾞｰでお好みの音量に設定してください。

■音に REVERB（リバーブ）効果を加える

■ リバーブとは？

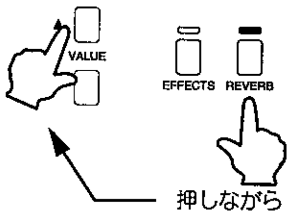
リバーブ効果を加えると、音に残響効果が加わり深みのある美しい響きが得られます。
本機では、以下の5種類のリバーブを用意しています。

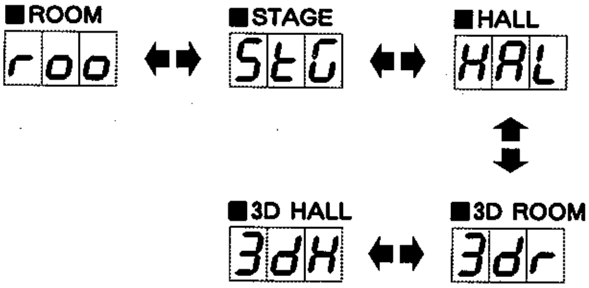
1. ROOM	**室内で演奏している時の残響効果が得られます。**
2. STAGE	**ステージで演奏している時の残響効果が得られます。**
3. HALL	**ホールで演奏している時の残響効果が得られます。**
4. 3D ROOM	**室内で演奏している時の残響に3次元の広がりを加えた効果が得られます。**
5. 3D HALL	**ホールで演奏している時の残響に3次元の広がりを加えた効果が得られます。**

◇操作6

REVERBﾎﾞﾀﾝ を押しながらVALUEﾎﾞﾀﾝ でリバーブの種類を選びます。

REVERB ﾎﾞﾀﾝ のランプが点灯します。





REVERB ﾎﾞﾀﾝ を押している間、LED に今選ばれている
リバーブの種類が表示されます。

REVERB ﾎﾞﾀﾝ を押して消灯させると、音色のリバーブ効果は解除されます。
再度 REVERB ﾎﾞﾀﾝ を押して点灯させると、前回選択していた種類のリバーブ効果が加えられます。

■音にCHORUS(コーラス)/DELAY(ディレイ)1,2,3/TREMOLO(トレモロ)効果を加える

■ コーラス：元々の音にもう一つのピッチのずれた音を合わせることにより、音に広がりを加わえます。

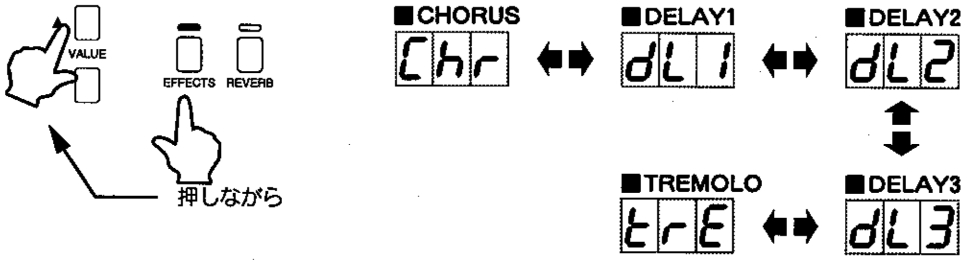
■ ディレイ：元の音に山びこ（エコー）のような反響音を加える効果です。本機では3種類のディレイ効果を用意しています。

■ トレモロ：音に " ゆらぎ " を与える効果です。ビブラフォーンの音にかけると効果的です。

◇操作 7

EFFECTSﾎﾞﾀﾝ を押しながらVALUEﾎﾞﾀﾝ で効果の種類を選びます。

パネル上の EFFECTS ﾎﾞﾀﾝ ランプが点灯します。

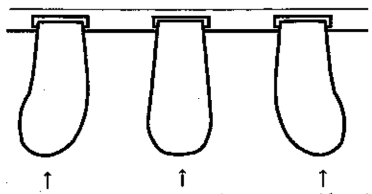


EFFECTS ﾎﾞﾀﾝ を押している間、
LED に今選ばれている効果の種類が表示されます。

EFFECTS ﾎﾞﾀﾝ を押して消灯させると、音色の効果は解除されます。
再度 EFFECTS ﾎﾞﾀﾝ を押して点灯させると、前回選択していた種類の効果が加えられます。

2) ペダルを使って演奏

本機には、ダンパー、ソステヌート、ソフトの
３種類のペダルを装備してます。



■ ダンパーペダル

ダンパーペダルは、足元の3つのペダルの内一番右についているものです。
これを踏むことにより、音に余韻を与えます。

ピアノの音は、鍵盤を押すとハンマーが弦をたたき、音が発音しますが、指を離すとダンパーが弦を止めて発音が止まります。
ダンパーペダルを踏むと指を離してもダンパーが弦を止めないため､音が止まらず豊かな響きが得られます。

■ ソステヌートペダル

ソステヌートペダルは、足元の3つのペダルの内中央についています。

これを踏むと、そのとき押さえていた鍵盤の音のみに余韻を与えます。
従って、このペダルを踏んだ後に押した別の鍵盤の音は、通常通り発音します。

■ ソフトペダル

ソフトペダルは、足元の3つのペダルの内一番左側についています。

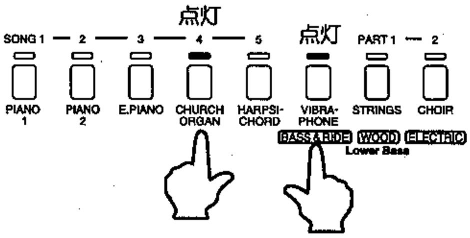
これを踏むと、音量がわずかに下がると同時に音の響きがやわらかくなります。

3) デュアル演奏

デュアル演奏は 2つの音色を重ね合わせます。
2つの音色を同時に発音させることにより、演奏に独特の厚みを与えることができます。

◇*操作 1*

2つの音色ボタンを同時に押します。

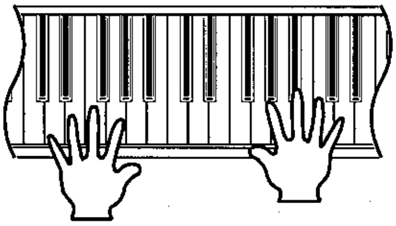


重ね合わせる2つの音色ボタンを両方押すと2つの音色ランプが点灯します。

チャーチオルガンとビブラホンの音を重ね合わせる場合は、左図の様な操作になります。

◇*操作 2*

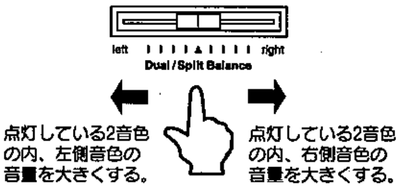
鍵盤を弾いてみましょう。



鍵盤を弾けば選択した 2つの音色が重なって発音されます。

◇*操作 3*

Dual/Split Balance ｽﾗｲﾀﾞｰで2つの音色のバランスを設定します。



左側に動かすと、パネル音色ボタンの左側音色の音量が大きくなります。

右側に動かすと、パネル音色ボタンの右側音色の音量が大きくなります。

◇*操作 4*

デュアル演奏の解除は、音色セレクトﾎﾞﾀﾝをどれか1つ押します。

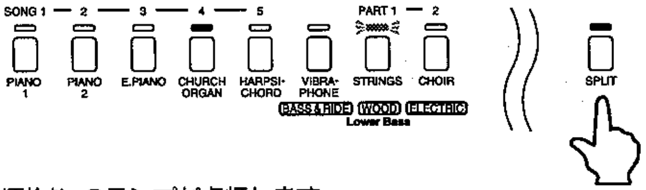
その押した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

4) スプリット演奏

鍵盤をスプリットポイントを境に左右 2 つに分け、鍵盤の高音側、低音側それぞれに別々の音色を設定しアンサンブル演奏ができます。

◇操作 1

SPLIT ﾎﾞﾀﾝ を押します。



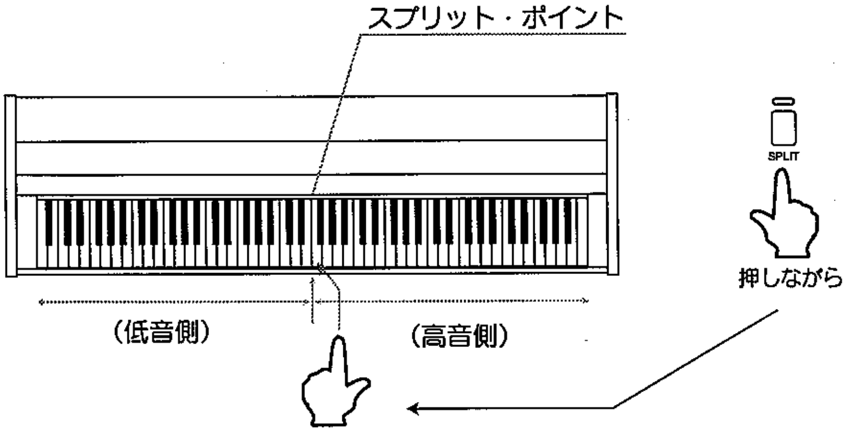
SPLITﾎﾞﾀﾝ のランプが点灯します。
音色セレクトボタンの中で点灯しているボタンと点滅しているボタンがあります。
点灯している音色ボタンは、SPLITﾎﾞﾀﾝ を押す前に選ばれている音色で、高音側の音色です。
点滅している音色ボタンは、低音側の音色で初期設定されている BASS & RIDE のランプが自動的に選ばれます。

スプリットポイントは自動的に中央の C に設定されます。

◇操作 2

スプリットポイントを変更したい場合は、SPLIT ﾎﾞﾀﾝ を押しながら鍵盤を押します。

押した鍵盤が、高音側の最低音になります。

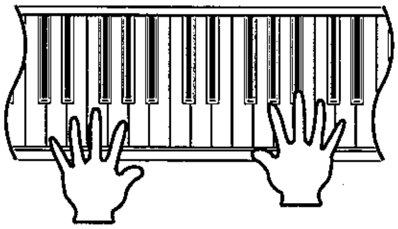


◇*操作 3*

鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば、スプリットポイントを境に別々の音色で発音されます。

右手でコードとメロディー、左手でベースラインを弾いてアンサンブル演奏を楽しむことができます。



◇*操作 4*

高音側の音色変更は、音色ボタンを押して変更します。

押した音色ボタンのランプが点灯します。

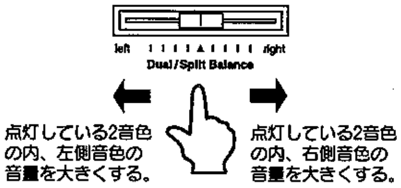
◇*操作 5*

低音側の音色変更は、SPLIT ﾎﾞﾀﾝ を押しながら音色ボタンを押します。

押した音色ボタンのランプが点滅します。
低音側にビブラホン、ストリングス、クワイヤーの音色を選択する時は、SPLIT ﾎﾞﾀﾝ を押しながらビブラホン、ストリングス、クワイヤーの音色ボタンを2回連続して押します。

◇*操作 6*

Dual/Split Balance ｽﾗｲﾀﾞｰ を動かして、高音側と低音側のバランスを設定します。



◇*操作 7*

スプリット演奏を止める時は、再度 SPLIT ﾎﾞﾀﾝ を押します。

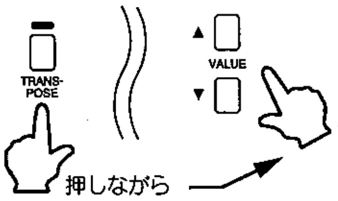
SPLIT ﾎﾞﾀﾝ の上のランプが消灯します。

5) トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。

◇操作

TRANSPOSEﾎﾞﾀﾝ を押しながらVALUEﾎﾞﾀﾝ で移調させます。



TRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ のランプが点灯し、ボタンを押している間、現在セットされているトランスポーズの値がLEDに表示されます。

電源 ON 時は「0」に設定されTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ のランプは消灯しています。

VALUE ▲ ﾎﾞﾀﾝ を押す度に半音ずつ調が上がり、VALUE ▼ ﾎﾞﾀﾝ で半音づつ調が下がります。

-6～5 の間で設定できます。

-6 ～ 0 ～ 5

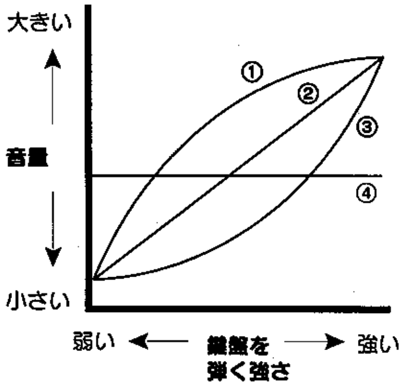
-6, -5, -4, -3, -2, -1, **0**, 1, 2, 3, 4, 5
F#, G, G#, A, A#, B, **C**, C#, D, D#, E, F

■ TRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ のランプは、ハ長調（C）以外のキーにセットされている時に点灯します。

例えば、ここで「-3」にセットしておき、TRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ のランプを点灯させれば、半音３つ分音が下がり TRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ のランプを消灯させれば、ワンタッチでハ長調（C）のキーに戻ります。

6) タッチカーブ

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。この鍵盤を弾く強さと音量との関係を表したものをタッチカーブと呼びます。
本機では、4種類のタッチカーブを装備しています。



① LIGHT（ライト）：弱いタッチで弾いても大きな音がでます。小さなお子様や、軽いタッチをお好みの方に向けたタッチカーブです。

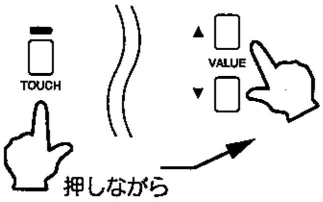
② NORMAL（ノーマル）：アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。TOUCH ﾎﾞﾀﾝ のランプが消灯している時は、このカーブになっています。

③ HEAVY（ヘビー）：強いタッチで弾くと大きな音が出ます。指の力の強い人や練習向きのタッチカーブです。

④ OFF（オフ）：タッチの強弱に関わらず一定の音量で発音します。

◇操作

TOUCHﾎﾞﾀﾝ を押しながらVALUEﾎﾞﾀﾝ を押してタッチの種類を選びます。



TOUCH ﾎﾞﾀﾝ のランプが点灯し、ボタンを押している間LED に現在選ばれているタッチカーブが表示されます。VALUE ﾎﾞﾀﾝ を押して LIGHT/HEAVY/OFF の3種類の中から選択します。
ここで選択したタッチカーブは、TOUCH ﾎﾞﾀﾝ のランプが点灯時に有効になります。

TOUCH ﾎﾞﾀﾝ のランプが消灯時は、NORMAL（ノーマル）に設定されます。

7）デモ曲の演奏

本機には、音源のすばらしさを生かしたデモ曲を41曲内蔵しています。

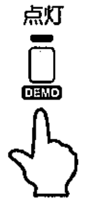
曲No.

1	幻想即興曲/ショパン	15	ジングルベル	29	蛍の光
2	エリーゼのために/ベートーヴェン	16	おめでとうクリスマス	30	グリーンスリーブス
3	貴婦人の乗馬/ブルクミュラー	17	喜びの歌	31	PIANO1（乙女の祈り）
4	アラベスク第1番/ドビュッシー	18	ショパン前奏曲作品28の7	32	PIANO2
5	花の歌/ランゲ	19	ブラームスの子守歌	33	E.PIANO
6	別れの曲/ショパン	20	カルメン組曲より（闘牛士の歌）	34	CHURCH ORGAN
7	トルコ行進曲/モーツァルト	21	スケーターズ　ワルツ	35	HARPSICHORD
8	10人のインディアン	22	いとしのクレメンタイン	36	VIBRAPHONE
9	キラキラ星	23	故郷の人々	37	STRINGS
10	鐘がなるよ	24	わらの中の七面鳥	38	CHOIR
11	山の音楽家	25	聖者の行進	39	BASS&RIDE
12	まきびとひつじを	26	ヤンキードゥードル	40	WOOD
13	きよしこの夜	27	アニーローリー	41	ELECTRIC
14	あれ野のはてに	28	ダニーボーイ		

●No.1～7：クラシック名曲集 / No.8～30：お子様になじみのデモ曲集 / No.31～41：音色紹介デモ曲集（No.31以外は、オリジナル曲です。）

◇ *操作1*

DEMOボタンを押します。

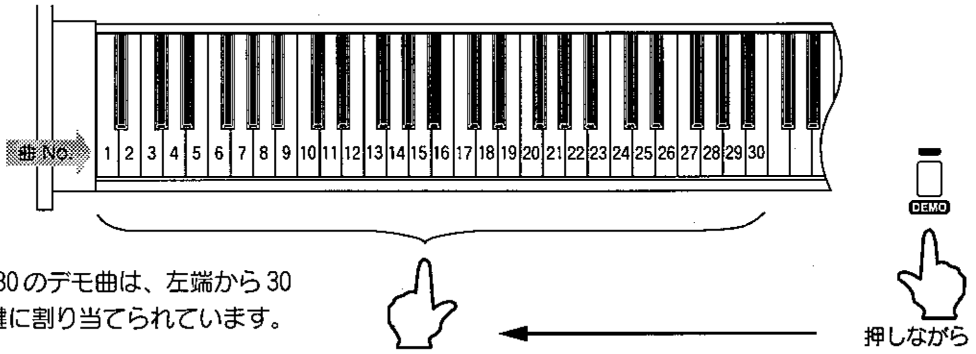


DEMOボタンのランプが点灯し、1曲から41曲までを連続再生します。再度DEMOボタンを 押すまで繰り返します。
LEDには、曲番号が表示され演奏されます。

◇ *操作2*

クラシック名曲集 / お子様になじみのデモ曲集（No1～30）を聴く時は、DEMOボタンを押しながら聴きたい曲の鍵盤を押します。

（DEMOボタンを押した後、VALUEボタンで曲No.を選ぶこともできます。）

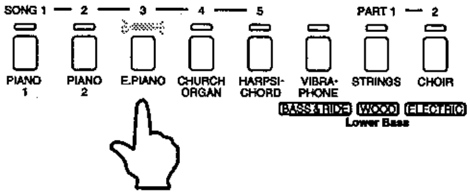


No1～30のデモ曲は、左端から30個の白鍵に割り当てられています。

No1～30のデモ曲は、左端から30個の白鍵に割り当てられています。

◇*操作3*

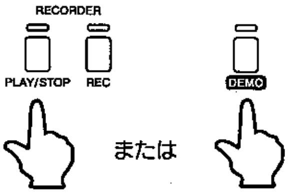
操作1でデモ曲演奏中に、音色ボタンを押して音色紹介デモ曲（No.31～41）を選択できます。No.39～41の曲を聴く場合は、ボタンを2回連続して押してください。（DEMOﾎﾞﾀﾝを押した後、VALUE ﾎﾞﾀﾝ で曲No.を選ぶこともできます。）



音色紹介デモ曲再生中は、その音色ボタンのランプが点滅します。

◇*操作4*

デモ曲の演奏を止めるには、もう一度DEMOﾎﾞﾀﾝか PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ を押します。



DEMOﾎﾞﾀﾝのランプが消灯します。

■ *DEMOﾎﾞﾀﾝを押した後なんの操作もしなければ、1曲から41曲までを連続再生します。再度DEMOボタンを押すまで演奏を繰り返します。*

■ *デモ曲演奏中は、エフェクトなどの切り替えはできません。*

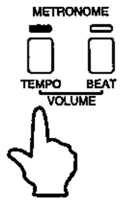
8) メトロノーム

メトロノームを使って練習をしましょう。

メトロノームの発音とテンポ設定。

◇操作 1

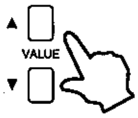
TEMPO ﾎﾞﾀﾝ を押します。



TEMPO ﾎﾞﾀﾝ が点灯し、メトロノームが発音します。
LED にそのテンポの値が表示されます。

◇操作 2

VALUE ﾎﾞﾀﾝ を押してテンポの早さを設定できます。



LED にテンポが表示されている間、テンポの値を ♩ =30 ～ 300 の範囲で設定できます。(6/8 拍子のときは、♪ =60 ～ 600)

◇操作 3

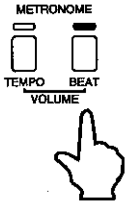
再度 TEMPO ﾎﾞﾀﾝ を押すとストップします。

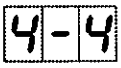
TEMPO ﾎﾞﾀﾝ のランプは、消灯します。

メトロノームの拍子設定。

◇操作 1

BEAT ﾎﾞﾀﾝ を押します。

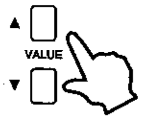




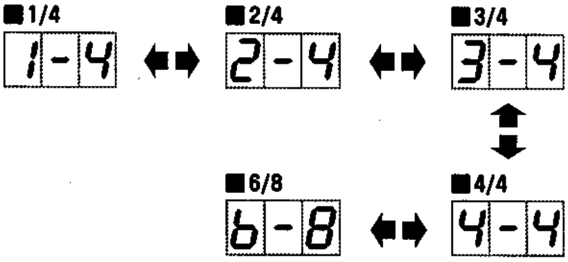
BEAT ﾎﾞﾀﾝ が点灯し、LED にその拍子が表示されメトロノームが発音します。

◇操作 2

VALUE ボタンを押して拍子を選択します。



1/4, 2/4, 3/4, 4/4, 6/8 拍子より選択することができます。



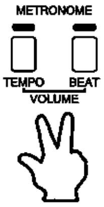
◇操作 3

再度 BEAT ボタンを押すと LED は、消灯しメトロノームが止まります。

メトロノームの音量設定。

◇操作 1

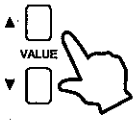
METRONOME ボタン（TEMPO と BEAT）を同時に押します。

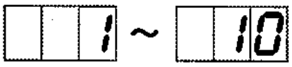


METRONOME（TEMPO と BEAT）ボタンが点灯し、
メトロノームが発音します。
LED にその音量の値が表示されます。

◇操作 2

VALUE ボタンを押して音量を設定します。





1～10 の範囲で設定できます。
値が大きくなるほど音量が大きくなります。

◇操作 3

再度 METRONOME ボタン（TEMPO と BEAT）を同時に押すとランプが消え、メトロノームが止まります。

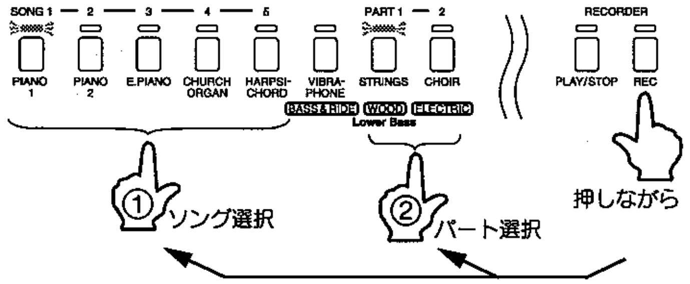
3.録音・再生

1) 録音

本機では、自分の演奏を5曲(5ソング)まで、録音し再生することができます。
それぞれの曲（ソング）は、2つのパートから構成されており、2回の演奏を重ね合わせて再生できます。
録音は、録音する曲（ソング）とそのパートを選択して行います。
SONG ﾎﾞﾀﾝ とPARTﾎﾞﾀﾝ は、音色ボタンに対応しています。

◇操作 1

REC ﾎﾞﾀﾝ を押しながらソングとパートを選択します。



REC ﾎﾞﾀﾝ を押している間、SONG ﾎﾞﾀﾝ とその PART ﾎﾞﾀﾝが各1コづつ点滅しています。
この点滅しているボタンが録音の行われるソングとパートです。

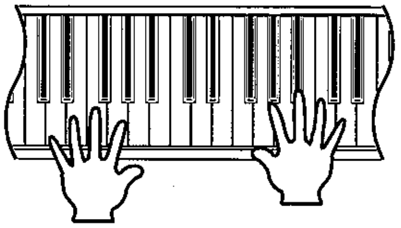
この時、SONG ﾎﾞﾀﾝ と PART ﾎﾞﾀﾝを押して録音するソングとパートを変更できます。

パートの選択をしないと自動的にパート1が選択されます。

REC ﾎﾞﾀﾝ を離すと点滅していたSONG ﾎﾞﾀﾝ とPART1ﾎﾞﾀﾝ のランプが消灯し、REC ﾎﾞﾀﾝ のランプが点滅、録音待機状態となります。
(録音待機状態より、通常の状態へ戻したい場合、再度REC ﾎﾞﾀﾝ を押してください。)
このとき点灯している音色ボタンのランプ(設定する以前に選択していた音色)が録音に使用する音色です。
新たに音色を選択して録音を行う音色を変更することができます。

◇*操作 2*

鍵盤を弾いて録音をスタートします。
(PLAY/STOP ボタン を押しても録音を開始できます。)

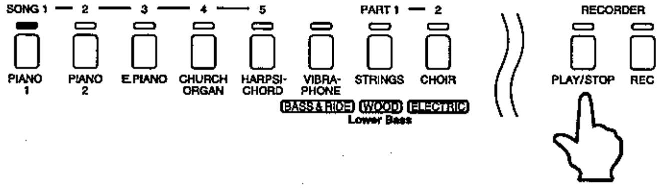


鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、PLAY/STOP ボタン と REC ボタン のランプが点灯します。

録音中の音色変更も記憶されます。

◇*操作 3*

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタン を押して録音を終了します。

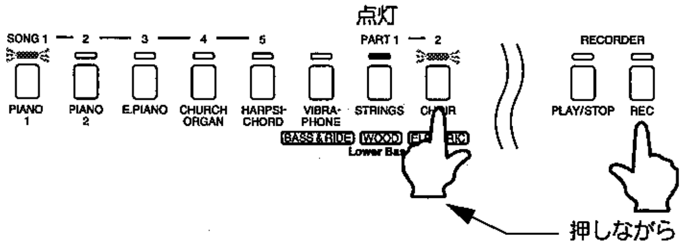


REC ボタン と PLAY/STOP ボタン のランプが消え録音が停止します。

■ひき続き、パート 1 に録音した演奏を聴きながら、パート 2 の録音をしてみましょう。

◇*操作 1*

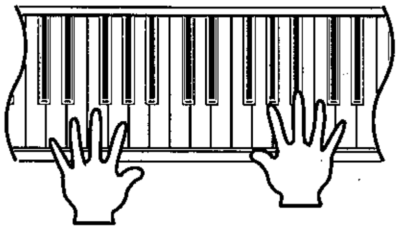
REC ボタン を押しながら PART2 ボタン を押します。



指定された SONG1 ボタン と PART2 ボタン のランプが点滅し、録音待機状態であることを示します。
また、PART1 ボタン のランプが点灯していますが、パート 1 の録音内容が再生待機状態であることを示しています。

◇操作 2

鍵盤を弾きパート2への録音を開始します。



鍵盤を弾くと自動的にパート 2 の録音が開始され、
同時にパート 1 が再生されます。
このとき REC ボタン と PLAY/STOP ボタン の
ランプが点灯します。

鍵盤を弾かずに PLAY/STOP ボタン を押して録音を
スタートさせることもできます。

□ 操作 3

PLAY/STOP ボタン を押して録音を終了します。

REC ボタン と PLAY/STOP ボタン のランプが消え、パート 2 の録音とパート 1 の再生がストップします。

■ *レコーダーの総記憶容量は、約 5,000 音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、録音が中止されます。　中止される直前までの演奏は録音されます。*

■ *レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えません。*

■ *パート 1 の演奏を再生しないでパート 2 に録音したいときは、REC ボタン を押す前に PLAY/STOP ボタン を押しながらパート 1 のランプを消灯させます。(P.23 参照)*

■ *録音中のパネル操作に関して...*

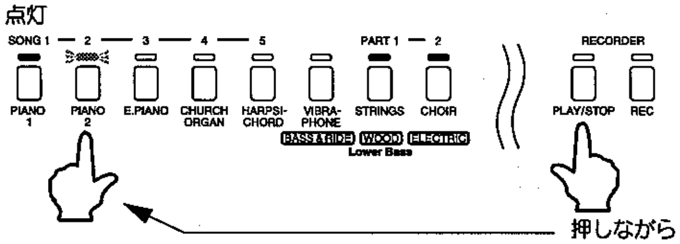
- *音色変更は記憶します。*
- *デュアルスプリットモードの移行は記憶します。*
- *エフェクト設定の変更は記憶せず、現在音色にアサインされているものがそのまま使われます。*
- *テンポ変更は記憶しません。*
- *デュアルスプリットバランスの変更は記憶されません。録音直前のバランスで記憶されます。*
- *タッチカーブ、トランスポーズボタンの ON/OFF 変更は、記憶されません。*
  再生時はトランスポーズがどこに設定してあっても、録音したときと同じ音程で再生されます。

2) 再生

録音した曲を再生します。

◇操作

PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ を押しながら再生するSONG ﾎﾞﾀﾝ を押します。



PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ を押している間で再生されるソングボタンが点滅し、そのパートボタンが点灯します。
また、点灯しているSONG ﾎﾞﾀﾝが録音されているソングです。
PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ から手を離すと再生が開始します。

ソング2を再生する場合は、PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ を押しながらSONG 2 ﾎﾞﾀﾝを押してランプを点滅させます。（上図）PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ から指を離したらソング2の再生が開始されます。

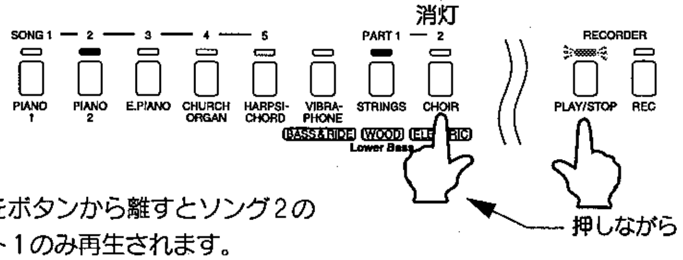
■再生中には、演奏情報は、MIDIデータとして送信します。（P.30参照）
パート1は1ch,パート2は2ch、固定で送信します。
デュアル,スプリットのモードで録音したときは、パート1は9ch,パート2は10ch の情報を加えて送信します。

■再生パートの選択

上の操作でPLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝを押した状態の時、パートのランプが点灯していると再生され、消灯していると再生されません。パート2を再生しないようにするには、下記のような操作になります。

◇操作

PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝを押しながらPART2ﾎﾞﾀﾝ を押し消灯させる。



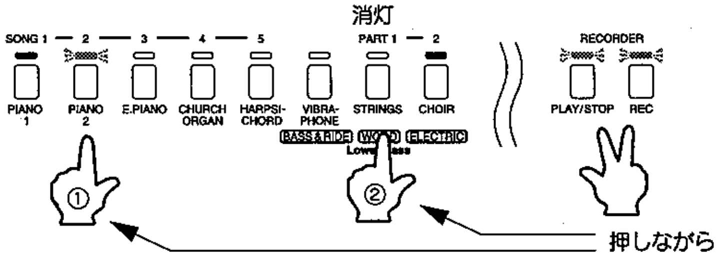
両手をボタンから離すとソング2の
パート1のみ再生されます。

3）曲の消去

ここでは、録音に失敗したり、いらなくなった曲をパート毎に消去します。

◇操作

PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ とREC ﾎﾞﾀﾝ を同時に押しながら消去するSONG ﾎﾞﾀﾝ とPARTﾎﾞﾀﾝ を押します。



PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝ とREC ﾎﾞﾀﾝ を同時に押すと、現在選択されているソングのランプが点滅し、録音されているソングのランプが点灯します。
SONG ﾎﾞﾀﾝ を押してソングを選んだ後、消去するPARTﾎﾞﾀﾝを押してランプを消灯させたら、そのソングのパートのデータが消去されます。

上図は、ソング2のパート1を消去します。

■ *ソングを選んだだけでは曲は消去されません。*

■ *複数のソングやパートを消去するときは、繰り返し操作を行ってください。*

■ *録音されているすべてのソングを消去したい場合は、PLAY/STOP ﾎﾞﾀﾝと REC ﾎﾞﾀﾝ を押したまま、電源を入れてください。*

4.設定モード

本機には、いろいろなピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
この設定を行う場所を " 設定モード " といい、この設定モードでは以下のメニューの設定を行うことができます。

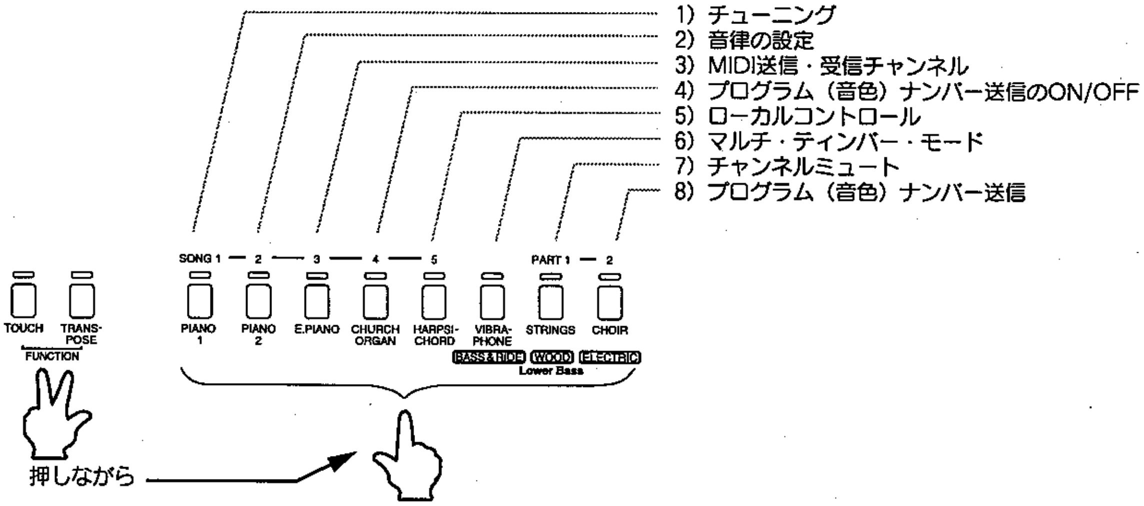
●設定モードのメニュー

1) チューニング
2) 音律の設定
3) MIDI 送信・受信チャンネル
4) プログラム（音色）ナンバー送信の ON/OFF
5) ローカルコントロール
6) マルチ・ティンバー・モード
7) チャンネルミュート
8) プログラム（音色）ナンバー送信

(1) 設定モードへの入りかた

◇操作

FUNCTION ボタン（TOUCH と TRANSPOSE ボタン）を押しながら各メニューが割り当てられた音色ボタンを押します。

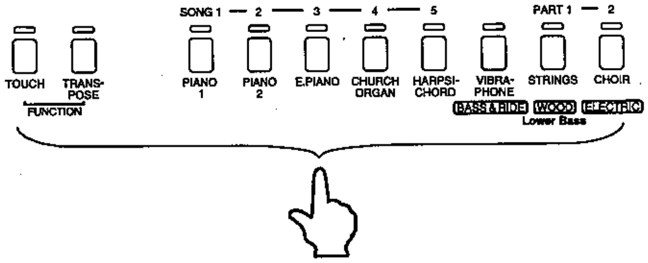


押された 3 つのボタンが点滅します。

(2) 設定モードの終り方

◇操作

TOUCH ﾎﾞﾀﾝまたはTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝを押すか、音色ボタンを押して音色を選択します。



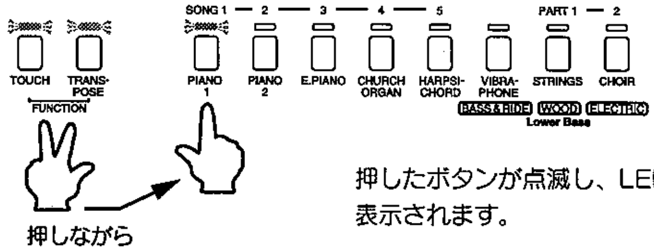
ランプの点滅が消え " 設定モード " から出ます。

1) チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。

◇操作 1

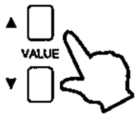
FUNCTION ボタン（TOUCHとTRANSPOSE ボタン）を押しながら、PIANO1 ボタンを押します。



押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている値が表示されます。

◇操作 2

VALUEボタン で値を設定します。



本機では、「A」の音を基準にして設定をします。
427.0～453.0 (Hz) の範囲を0.5Hzの単位で設定ができます。
表示は、百の位が省略されて十の位以下が示されています。

27.0 ～ 53.0 = 427.0 ～ 453.0

■この状態で鍵盤を弾くと、" 設定モード " にはいる前に選ばれていた音色が鳴ります。
チューニング調整は、この音色を使って行います。音色を変えたい場合は一度 " 設定モード " から出て音色を選びなおしてから、再度 " 操作 1 "、" 操作 2 " の操作を行います。

■電源を入れた時は、440.0Hzに設定されます。

2) 音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を全部で 6 種類本体にセットしています。

本機にセットされている音律は以下の通りです。

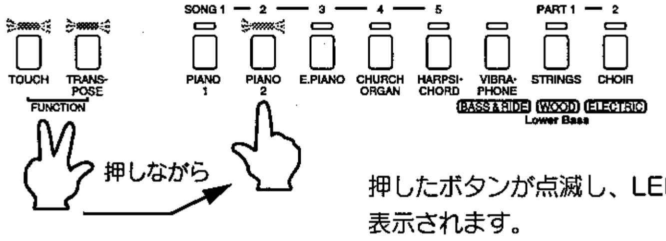
■各音律の特長

◆ **平均律**	ピアノの調律法として、最もポピュラーなもので、どのように移調しても和音の響きが変らないという特長があります。
◆ **純正律**	3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。
◆ **ピタゴラス音律**	5度のうなりをなくした調律法で、和音よりもメロディーを演奏すると非常に美しいのが特長です。
◆ **中全音律**	3度のうなりをなくした調律法で純正律の特長の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。
◆ **ヴェルクマイスター第 III 法** **キルンベルガー第 III 法**	調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるに従って、緊張感が高く、メロディーが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した " 調性の性格 " を反映することのできる調律法です。

次より設定方法を説明していきます。

◇操作 1

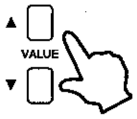
FUNCTIONﾎﾞﾀﾝ （TOUCH とTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ）を押しながら、PIANO2 ﾎﾞﾀﾝを押します。

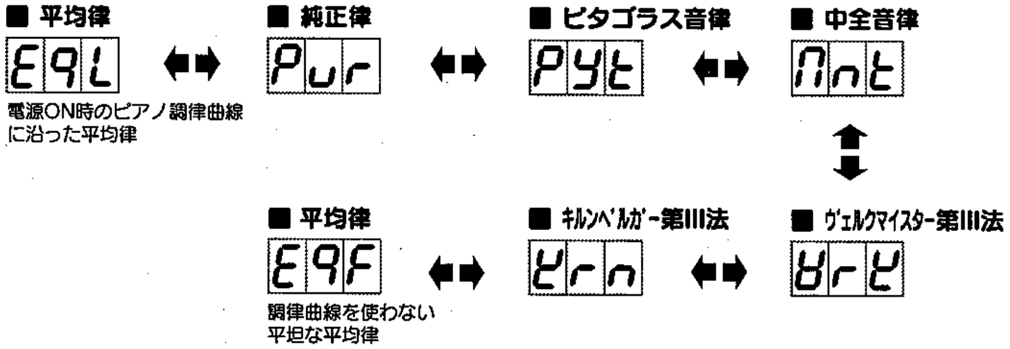


押したボタンが点滅し、LED に現在設定されている音律が表示されます。

◇操作 2

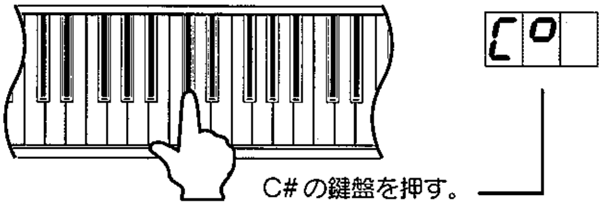
VALUEﾎﾞﾀﾝ で音律を設定します。





◇*操作3*

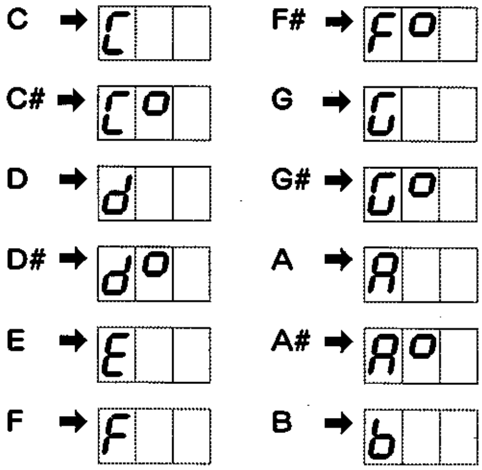
鍵盤を押して、音律の調（キー）を設定します。



設定は 88 鍵全部でできます。
鍵盤を押したら、LEDに調が表示されます。

■ *電源を入れた時は、平均律（ピアノの調律曲線に沿った平均律）になります。*

■ *平均律を選択した場合は、調の設定をしても変化はありません。*



■ MIDIについて

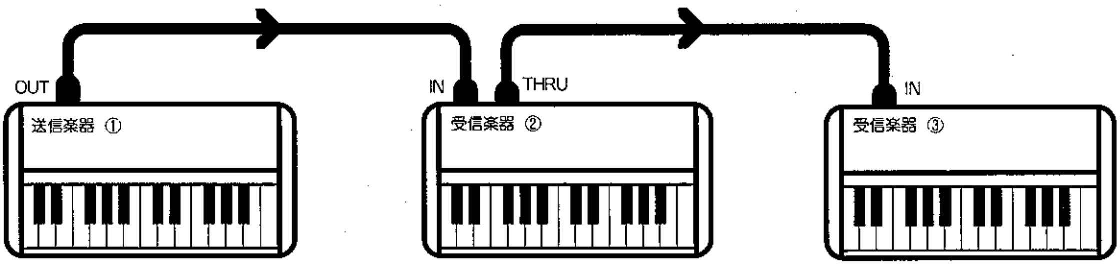
MIDI について簡単に説明します。
MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーやシーケンサーなどの電子楽器間を接続しお互いの情報をやりとりするするための世界統一規格です。

MIDI端子には、IN, OUT, THRU の3つの種類があります。いずれも MIDI専用ケーブルで接続します。

IN　：　鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT　：　鍵盤情報や音色情報を送信します。
THRU　：　受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの２種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

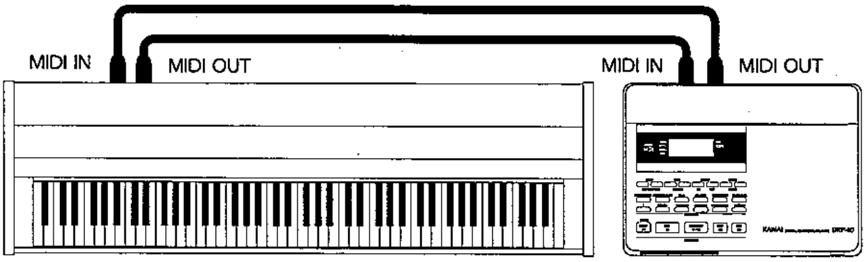
例えば３台の楽器を次のように接続して演奏するとします。



送信楽器① は、送信チャンネルと共に鍵盤情報等を受信楽器 ②，③ に送ります。
受信楽器 ②，③ には、この情報が送られて来ます。基本的には 受信楽器 ②，③ の受信チャンネルと送信楽器① の送信チャンネルが一致していれば、送られた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。
チャンネル番号は、送信，受信とも１ ～ １６までの番号を使用することが出来ます。

■ MIDIの使用例

●シーケンサーを使っての録音 / 再生



図の様にカワイのシーケンサーDRP-10に接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（P.35 参照）にして録音 / 再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォーンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。
また、DRP-10の場合音源も内蔵してますので、その内蔵音色を使ってピアノ演奏を楽しむこともできます。

■本機 MIDI 機能

本機の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆ **鍵盤情報の送信・受信**
電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ **送信・受信チャンネルの設定**
送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆ **プログラム（音色）ナンバーの送信**
電子ピアノとMIDIで接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ **ペダル情報の送信・受信**
ダンパーペダル、ソフトペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。また、ソステヌートペダルの場合は、オン / オフの送信ができます。

◆ **ボリューム情報の受信**
シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

◆ **マルチティンバーの設定**
電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことが出来ます。

◆ **エクスクルーシブデータの送信・受信**
フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

◆ **レコーダーの再生情報の送信**
レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

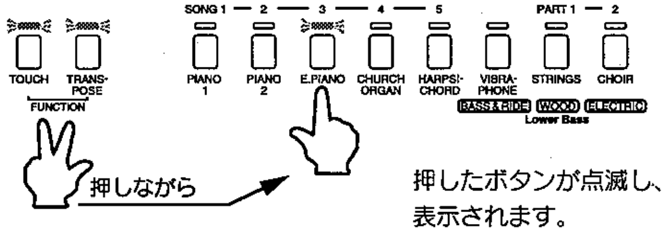
本機のMIDI機能についての詳細は、" MIDIインプリメンテーションチャート "（巻末）をご覧ください。

3）MIDI送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。
チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの 2 種類がありますが、本機ではそれぞれ別々のチャンネルに設定することはできません。1つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねています。

◇操作 1

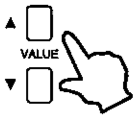
FUNCTION ﾎﾞﾀﾝ（TOUCHとTRANSPOSE ﾎﾞﾀﾝ）を押しながら、E.PIANO ﾎﾞﾀﾝを押します。



押したボタンが点滅し、LED に現在設定されている値が表示されます。

◇操作 2

VALUE ﾎﾞﾀﾝ で値を設定します。



1 ～ 16 の間で値を設定できます。

■本機は電源オン時には、1 ～ 16 のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニオンと呼びます。チャンネル設定を行うとオムニオフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。オムニオフで 1ch に設定したい場合は、一度チャンネルを 2 に設定してから 1 に戻してください。

■マルチティンバーモードが、ON1 または ON2（P.35）のときは、スプリット演奏時に低音側の演奏は、ここで設定したチャンネル +1 チャンネルで送信します。例えばここでチャンネルを 3 に設定してマルチティンバーを ON2 にしたとき、スプリット演奏の低音側の音色の演奏は、4 チャンネルで送信されます。

4) プログラム(音色)ナンバー送信のON/OFF

(1) 音色セレクト・ボタンによるプログラムナンバーの送信 / パネル操作の送信

本機では、通常の演奏中に8個の音色セレクト ﾎﾞﾀﾝ を切り替えることにより、下表のようなプログラムナンバーを送信できます。（マルチティンバーモードを2に設定したときは、右表右列の様なプログラムナンバーを送信します。）

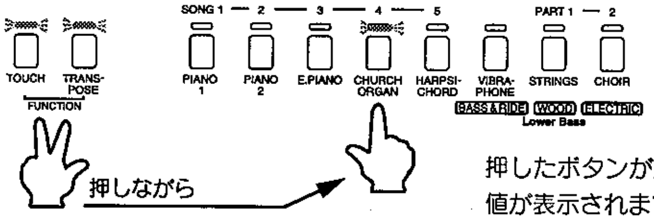
また音色セレクト・ボタン以外にも、タッチカーブ、デュアル、デジタルエフェクト、リバーブのボタン操作をMIDIエクスクルーシブデータとして送信することができます。

この音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により送信するか、しないか（オン / オフ）を設定することができます。

音色セレクトボタン	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾅﾝﾊﾞｰ	ﾏﾙﾁﾃｨﾝﾊﾞｰﾓｰﾄﾞ2の時
PIANO1	1	1
PIANO2	2	2
E.PIANO	3	5
CHURCH ORGAN	5	20
HARPSICHORD	6	7
VIBRAPHONE	7	12
STRINGS	8	49
CHOIR	9	53
BASS&RIDE	10	36
WOOD	11	33
ELECTRIC	12	34

◇操作1

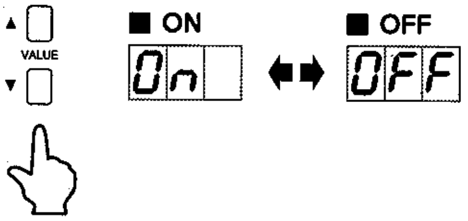
FUNCTIONﾎﾞﾀﾝ （TOUCHとTRANSPOSEﾎﾞﾀﾝ）を押しながら、CHURCH ORGANﾎﾞﾀﾝを押します。



押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている値が表示されます。

◇操作2

VALUEﾎﾞﾀﾝ で値を設定します。



電源オン時は、音色セレクト ﾎﾞﾀﾝ によるプログラムナンバーの送信は、自動的にオンにセットされます。

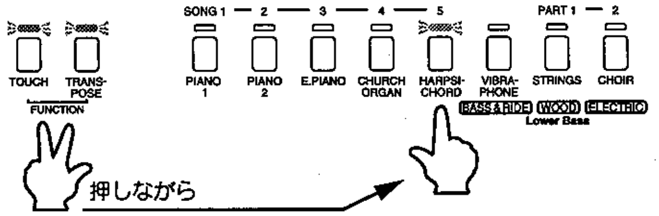
デュアルモード時には、デュアルモードのオン/オフ情報、音色の設定などをエクスクルーシブで送信しますが、プログラムナンバーは送信しません。

5) ローカル・コントロール

このモードは、本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードで、ローカルコントロールオン / オフモードと呼びます。
ローカルコントロールがオンの時は、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。
一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても音は鳴らず MIDI 情報を MIDI OUT します。
このときは、外部からの MIDI 情報を受信したときのみ音が鳴ります。

◇操作 1

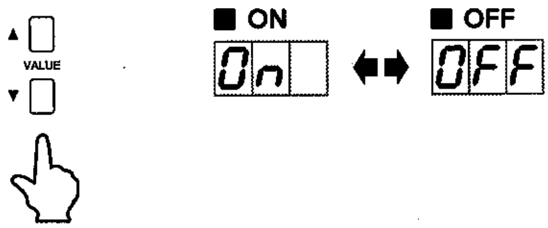
FUNCTIONﾎﾞﾀﾝ （TOUCH とTRANSPOSEﾎﾞﾀﾝ）を押しながら、HARPSICHORDﾎﾞﾀﾝを押します。



押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている値が表示されます。

◇操作 2

VALUEﾎﾞﾀﾝ で値を設定します。



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

■電源オン時、ローカルコントロールは、オンに設定されています。

6) マルチ・ティンバー・モード

通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送信受信しますが、マルチ・ティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。
この機能により、外部に DRP-10 などのシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色（マルチ・ティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

本機には、2種類のマルチ・ティンバー・モードを装備しています。

●マルチ・ティンバー・モード 1

マルチ・ティンバー・モード 1をONに設定（ON1）すれば、MIDI1～8,14～16チャンネルを受信した場合、［A表］の音色が鳴ります。
MIDI1～8,14～16チャンネルには、パネル上の各音色が割り当てられます。

［A表］ MIDI1～8チャンネルを受信した場合、下記の［A表］の音色が鳴ります。

音色セレクトボタン	Ch.
PIANO1	1
PIANO2	2
E.PIANO	3
CHURCH ORGAN	4
HARPSICHORD	5
VIBRAPHONE	6
STRINGS	7
CHOIR	8
BASS&RIDE	14
WOOD BASS	15
ELECTRIC BASS	16

●マルチ・ティンバー・モード 2

マルチ・ティンバー・モード 2をONに設定（ON2）すれば、各チャンネル毎にプログラムチェンジ情報を受信することによって下記の［B表］に対応した音色変更をすることができます。

また、モード2では、チャンネルミュートの設定することができます。(P.37参照)

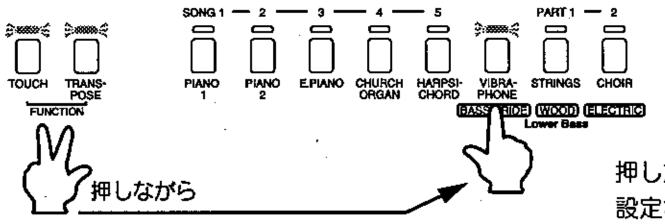
［B表］

音色セレクトボタン	プログラム・No.
PIANO1	1
PIANO1	8/1(16) *
PIANO1	4
PIANO1	3
PIANO2	2
PIANO3	3
E.PIANO	5
E.PIANO	6
CHURCH ORGAN	17
HARPSICHORD	7
VIBRAPHONE	12
STRINGS	49
CHOIR	53
BASS&RIDE	36
WOOD BASS	33
ELECTRIC BASS	34

* 1（16）とは、バンク（MSB）16,プログラムナンバー1という意味です。
上記以外のプログラムNo.を受信した場合は、発音しません。

◇操作 1

FUNCTIONボタン（TOUCHとTRANSPOSEボタン）を押しながら、VIBRAPHONEボタンを押します。

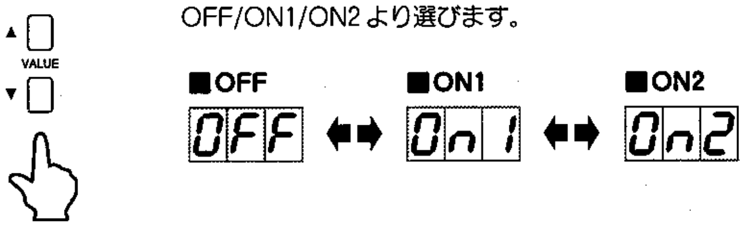


押したボタンが点滅し、LED に現在設定されている値が表示されます。

◇操作 2

VALUEボタンで値を設定します。

OFF/ON1/ON2 より選びます。



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

マルチ・ティンバー・モード がオフのときに、MIDI 情報を受信すると、そのとき選ばれていた音色セレクト ボタンの音色が鳴ります。

マルチ・ティンバー・モード 1がオンのときは、どの音色セレクト ボタン が選ばれていても受信したMIDI チャンネルに対応して前ページの［ A表 ］の音色が無条件に鳴ります。

マルチ・ティンバー・モード 2 がオンに設定されると、受信したプログラム・チェンジ・ナンバーに従って音色が発音します。
また、受信チャンネルごとに発音のオン / オフを設定することができます。（P.38 参照）

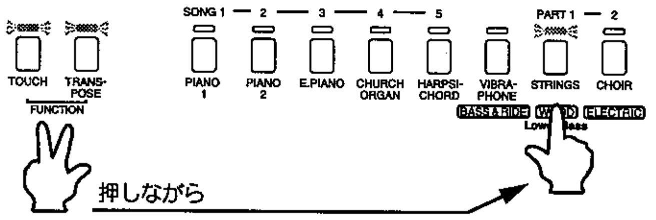
■電源オン時、マルチ・ティンバー・モードはオフに設定されます。

7) チャンネルミュート

各チャンネルの発音のオン / オフが設定できます。

◇操作 1

FUNCTIONﾎﾞﾀﾝ （TOUCH とTRANSPOSEﾎﾞﾀﾝ）を押しながら、、STRINGSﾎﾞﾀﾝを押します。

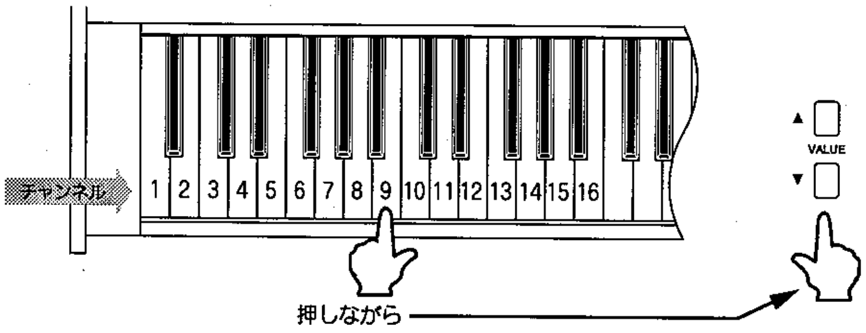


押したボタンが点滅し、LEDに現在設定されている値が表示されます。

6)マルチティンバーモードが、OFFまたはON1のときはこのモードには入れません。

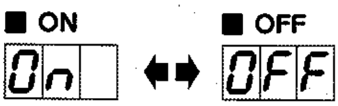
◇操作 2

左端から 16 個の白鍵でチャンネルを指定します。



◇操作 3

VALUEﾎﾞﾀﾝ で ON/OFF を設定します。



■この状態では、鍵盤を押しても音はでません。

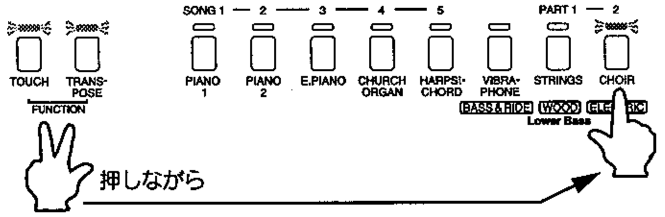
■電源を入れた時は、1chがONで、2～16chがOFFに設定されます。

8) プログラム(音色)ナンバー送信

本機では、1～128までのプログラムナンバーを送信することができます。

◇操作 1

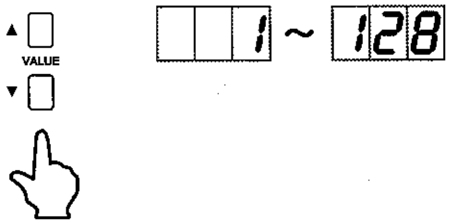
FUNCTIONﾎﾞﾀﾝ （TOUCHとTRANSPOSEﾎﾞﾀﾝ）を押しながら、、CHOIRﾎﾞﾀﾝを押します。



押したボタンが点滅し､LEDに現在設定されている値が表示されます。

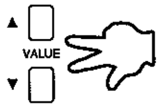
◇操作 2

VALUEﾎﾞﾀﾝ でプログラムナンバーを設定します。



◇操作 3

2つのVALUEﾎﾞﾀﾝ を同時に押すとプログラムナンバーの送信が実行されます。



主な仕様

■ 鍵　盤	88鍵　/　木製鍵盤 / ニューAWA鍵盤
■ 発音数	最大64（音色により異なる）
■ 音　色（11音色）	ピアノ1/2、エレクトリックピアノ、チャーチオルガン、 ハープシコード、ビブラフォーン、ストリングス、クワイヤー ベース&ライド、ウッドベース、エレクトリックベース（スプリットモード時）
■ 効　果	リバーブ（ルーム、ステージ、ホール、3Dルーム、3Dホール）、トレモロ、コーラス、 ディレイ1/2/3
■ 音　律	平均律（2）、純正律、ピタゴラス音律、中全音律、ヴェルクマイスター第III法 、キルンベルガー第III法
■ その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューン、デュアル、スプリット デュアル/スプリットバランス、テンポ、デモ（41曲） タッチカーブ選択（ライト、ノーマル、ヘビー、オフ）、メトロノーム
■ レコーダー	2トラック×5ソング、総記録容量　約5,000音
■ メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、6/8拍子
■ ペダル	ダンパー、ソフト、ソステヌート
■ 外部端子	ヘッドホン（2）、ペダル、MIDI（IN、OUT、THRU） LINE IN（L、R）<Pin>、LINE OUT（L/MONO、R）<Phone>
■ 出　力	40W×2
■ スピーカ	13cm×2（スピーカーボックス付）、2.5cm×2（ドームツイーター）
■ キーカバー	スライド式
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	100W
■ 仕上げ	ブックソロモン
■ 寸　法	［W×D×H］140×50×86（cm）　　スタンド含む
■ 重　量	68Kg
■ 付属品	取扱説明書（本書）、保証書、電源コード

KAWAI [Model PW750] MIDI IMPLEMENTATION CHART

Date : JUL 15, '97
Version : 1. 0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ～ 16	1 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *********	モード1 モード1,3*	* 電源ON時オムニ・オン。 MIDIチャンネル設定操作により オムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	15 - 113** *********	0 - 127 15 - 113	** 15-113 トランスポーズを含む。
ベロシティ	ノート．オン ノート．オフ	○ 9nH v=1-127 × 9nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ．ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 11 64 66 67 0,32	× × ○（右ペダル） ○（中ペダル） ○（左ペダル） ×	○ ○ ○ × ○ ○	ボリューム エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル バンクセレクト （プログラムチェンジ対応表参照）
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○（0 - 127）	○	（プログラムチェンジ対応表参照）
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○*** ○*** ×	*** マルチティンバーモード ON1,ON2の時
備考				

モード1：オムニオン、ポリ　モード2：オムニオン、モノ
モード3：オムニオフ、ポリ　モード4：オムニオフ、モノ

○: 有り
×: 無し

MIDI Exclusive Format

<TYPE1> F0 40 0n 30 04 02 D1 D2 F7

D1	D2		Function
00	00	:	Multi off
01	00	:	Multi on1
02	00	:	Multi on2

<TYPE2> F0 40 0n 10 04 02 D1 D2 F7

D1	D2		Function
0D	00~06	:	Effect off(0),mode1~6 on
0E	00~05	:	Reverb off(0),mode1~5 on
14	00~7F	:	Dual balance
16	1F~40~60	:	Tune(40=440Hz)
17	00/7F	:	Prog send off/on
18	00~03	:	Touch curve (0:light 1:normal 2:heavy 3:off)

<TYPE3> F0 40 0n 10 04 02 D1 D2 F7

D1	D2	D3	:			
20	00~0A	00~0A	:	Dual on	D2:Right tone	D3:Left tone
21	00~0A	00~0A	:	Split on	D2:Upper tone	D3:Lower tone
25	00~06	00~0B	:		D2:Temperament	D3:Key
26	00/7F	00~0F	:	Multi2 ch	D2:off/on	D3:ch

*)0n : 00~0F(MIDI ch)

PW950/750の取扱説明書追加について

取扱説明書に以下の説明をPW950には14ページ一番下，PW750には13ページ一番下に追加してください。

■ スプリット演奏時でのダンパー設定

スプリット演奏時にダンパーペダルを使用した際、低音側鍵盤の音にダンパー効果のON/OFFを設定できます。
（高音側鍵盤のダンパー効果は常にONとなります。）

◇操作1

SPLITボタンを押しながらダンパーペダルを踏みます。

上記操作を行う毎に交互に設定が切り替わります。

● PW950のディスプレイ

```
ピアノ 1
*  ロアーペダル ON  *
```
⇄
```
ピアノ 1
*  ロアーペダル OFF*
```

● PW750のディスプレイ

On ⇔ OFF

ONに設定した際、低音側鍵盤の音にもダンパー効果が加わります。
OFFに設定した際、低音側鍵盤の音にはダンパー効果を加えず、高音側鍵盤の音にのみダンパー効果が加わります。工場出荷時には、OFFに設定されています。

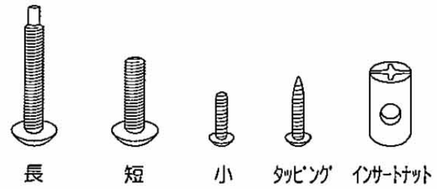
PW950 ：メモリーバックアップ（取扱説明書P39参照）にて設定保存
PW750 ：電源ONの際常にOFF

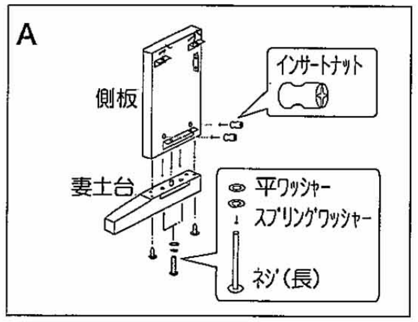
KAWAI　ST-88R　デジタルピアノ スタンド組立図

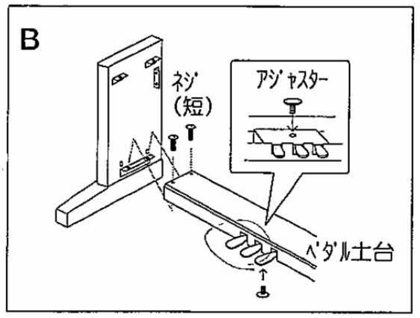
この度は、カワイ電子ピアノをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
この説明書を一通りお読みになり、パーツがすべて、そろっていることを確認されてから、床やスタンドを傷つけないように注意して組み立ててください。

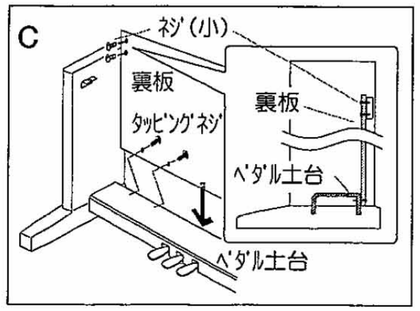
■パーツ（同梱品）

①側板 .... 2（左右）
②裏板 1
③ペダル土台 1
④妻土台 .... 2（左右）
⑤ネジ（長） 4
⑥ネジ（短） 8
⑦ネジ（小） .... (PW750)8/(PN250)4
⑧タッピングネジ 4
⑨インサートナット 4
⑩平ワッシャー 4
⑪スプリングワッシャー 4
⑫アジャスター 1
⑬コードクランプ 1
⑭前板(PW750のみ) 1









■組み立て順序

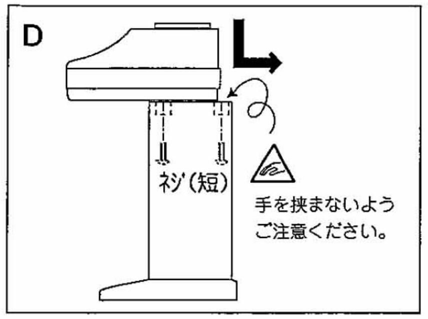
1. 側板にインサートナットを2個入れ、インサートナットの穴が下側を向くように、ドライバーで調節します。

2. 側板と妻土台を2本のネジ（長）で固定します。
平ワッシャーとスプリングワッシャーを図の様に挟みます。
側板と妻土台は､左右あるので組み合わせに注意してください。

3. ペダル土台の裏側からアジャスター（高さ調整ネジ）を1cmぐらいはめこみます。また、ペダル土台に結ばれているペダル接続コードをほどいて、ペダル接続コードを引き出しておいてください。

4. 側板とペダル土台を4本のネジ（短）で固定します。この時、側板とペダル土台を密着させて取り付けください。

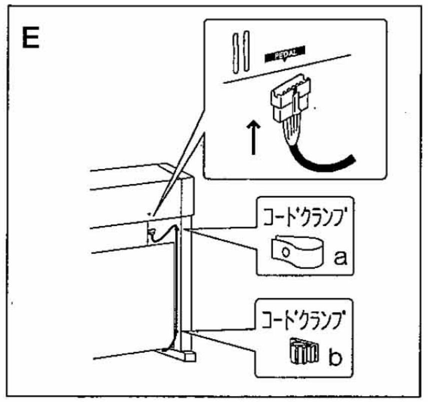
5. 裏板を側板に取り付けます。まず、ネジ（小）4本で上部を固定してから4本のタッピングネジで下部を固定します｡この時、側板と裏板にスキがないように密着させて取り付けてください。



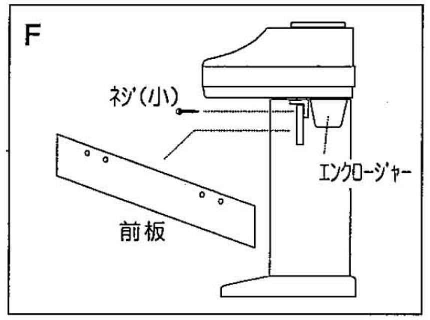
6. 本体をスタンドに静かに載せます。真上から見て、本体の後ろに金具の穴が見えるくらい本体の前方に載せます。
スタンドを固定して、本体が傾いて落ちないように一方の手で前部を支えながら本体を後ろにスライドさせると、本体のフックが側板の金具に引っかかります。この時、本体の後ろを支持している手を、側板と本体の間ではさまないように注意してください。

7. 本体とスタンドを4本のネジ（短）で固定します。
まず、ネジを軽く締めて、4本のネジがすべてまっすぐ入るように本体の位置を調整してから、きちんとネジを締めるようにしてください。

必ず本体とスタンドをネジで固定すること。
固定しないと、本体がスタンドから落ち、大変危険です。

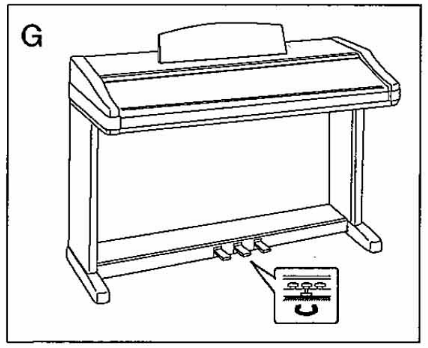


8. ペダル土台から出ているペダル接続コードを端子の突起部を手前にして本体のペダル端子に差し込み、a,b のコードクランプでとめます。(aコードクランプは、ネジをはずしてからはめてください。bコードクランプは、コードが適当な位置になるような場所に裏面のシールを剥がして取り付けてください。)



9. (PW750のみ)
前板を本体下部のエンクロージャー前部にネジ（小）4本で取り付けます。

（PN250には、エンクロージャーと前板はありません。）



10. ペダル土台の裏にはめたアジャスターを､床にピッタリ付くまで回してペダル土台を補強します。

9711
Printed in Japan

KAWAI
株式会社河合楽器製作所
電子楽器事業本部
〒430-8665 浜松市寺島町200番地
TEL 053-457-1277
FAX 053-457-1279